

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラスキッズ大分ルーム		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 11日		～ 2024年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	2024年 10月 4日		～ 2024年 10月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者と子どもの発達のことについて共通理解しながら支援に繋がっていること	通所毎に、子どもの園や家庭での様子を保護者と情報共有し、得意とすること・苦手とすること等の共通理解を持ちながら楽しく通える支援を実施している。	保護者だけではなく、子どもと接する機会のある園や施設の方とも、子どもの様子などを共有して支援に活かす。
2	子どもの発達状況に合わせて、個別支援(マンツーマン)と小集団支援(2～3名)を組み合わせながら、子どもに必要なスキル習得を目指す支援を行っている。	集団生活に向けての課題や保護者のニーズを個別で支援しながら、年齢や状況に合わせて小集団の支援に取り組んでいる。また、遊びの中で異年齢とも関われる時間を設けたり、子ども一人に対して支援員を増やしたり等、様々な取組みも行っている。	就学前の年齢に偏らず、子どもの発達状況にあわせ異年齢の小集団支援を組合せながら、コミュニケーションスキルの向上を目指す支援を行っている。
3	子どもの発達時期や利用頻度に合わせて、保護者とのアセスメントを適切に行い、状況や課題に合わせて児童発達支援計画を作成している。	子どもの発達状況に合わせて新たな支援目標や内容に取組めるよう、児童発達支援計画の期間を3か月～6か月に定めたり、日頃から保護者と得意なこと・苦手なことを情報共有しながら支援計画を作成している。	子どもと関わる方との情報共有も行いながら、児童発達支援計画に取組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援では、限られたスペースで活動しているので、活動内容によっては狭く感じる。	個別支援を行う際に、同室・同時時間帯で重なる利用も多いことから仕切り等を用いて区分けしているが、活動等の内容によってはスペースが縮小されてしまう。	同室・同時時間帯に個別支援を提供する際は、活動範囲等も全職員に事前共有していく。また、活動内容によっては時間帯の変更や、使用スペースの工夫を行っていく。
2	保護者と子どもの家庭での行動や障害特性等の悩みや相談の中で、専門的なアドバイスが不十分。	専門的な知識や経験が不足している。発達支援センターとの関わりを持ちながら連携に務め、発達障害支援スキルもある程度は習得している支援員を配置しているが、障害特性によっては専門性の高い的確なアドバイスの仕方が困難。	支援員のスキル向上を目指した研修や訓練を取入れ、専門性が高い方にアドバイスをいただく等、事業所全体が質の高い支援を目指していく。
3	地域住民との関わりや、幼稚園・こども園等の他児と活動する機会がない。	地域住民との関係性を持つには、情報や安全といったリスク管理もあることから、積極的には構築できない。また、保護者の中には関わりを望まない方も多い。	幼稚園やこども園との活動機会は、保護者に同意を得られた子どもに対し、園の先生等と情報共有やアドバイスをしたり、関係性を築いていく。また、地域で開催する季節型のイベント等にも参加を検討していく。